作業保和帳

中

へ與-24
216
2

長嶋町五丁目
大野屋惣八

俳諧保物語中目録

第一　いそかみ墨よい書んれる
第二　えをりのの帝まちり不義を答る
第三　神くるるいそかよるひるの不義れる
第四　いそか帝まに暮るぬぐられる
第五　ぐ書や不義れる
第六　きりひ稽舎にとくる
第七　いそかん稽ぜらる事
第八　いそかふれ中あそれる
第九　いそかまんぞよおるく蔵れぬとへを
　　ひきるる事

門へ 24
216
2

第十　いそがはれぬとあとにのこりたる人

第十一　狼とひきがとのうち

第十二　ゐとひきがとのうち

第十三　ゐもとをとりつくりにとりてること

第十四　師子王ひきがとの牛野の牛れう

第十五　日猫と盗人れう

第十六　鶏と狼とのうち

第十七　ものうとろどとのうち

第十八　糸といとろれ猫とれう

第十九　ものうとものとのうち

第二十　ものうとうきがとのうち

第廿一　うとものとものとのうち

第廿二　ものとゐとのうち

第廿三　ものうとものとれう

第廿四　きがとゐ猫とのうち

第廿五　かもがひがもんとのぞむうち

第廿六　とびとものとのうち

第廿七　うとものとくびやくとのうち

第廿八　ものとゐものとのうち

第廿九　いとうとかりかりのうち

第三十　師子王とゐどうとものうと

第卅一　ものうものとものうるのうち

第廿二　ものとるべきこと

第廿三　強盗とけがのとがあらはれること

第廿四　うのもてひろうべきこと

第廿五　みぢかきものとながきものとること

第廿六　脇ものとがのれること

第廿七　人とるべきこと

第廿八　猿ものとられること

第廿九　ものをもとめること

第卅　ものとるべきこと

第一　いそがるしきよい考えれ除し

一彼ひとりのこと　ゆめ〳〵他人を能力を頼むべからず我が力

あるべきことをそれ人宮れ為れ為れ義幻れども思ひ乃を

ものとるべきものとかと特べきあるよ。力をいれ乃よりい

妻子を人りい入べきこと。我このものとることと不成。

二彼ひとりの天乃ものやもの。毎日の天命を思ひ思べし。天の二

んものの。忠義と無徳と命と為ん人作べし。

三　夫人をもて。情愛と思べし。

よあ乃と物を後せ。別天賢とう考えんものべびとと意通

四雅楽おもんはひろきんを。ものを雅楽思べ。思べ

ものもの。生れ乃べとものべ。ぜんどんよいるべし

六 人とりて雷うちぐるまの威勢なり。欲ありてもしこれを
あかいうる。後とのへ先初てさんはうろくやうにむかへ
七 美女よ美女よ男よと下知して女い殺よ入妻能戸入雖
七 をんどんとうりのりのよりとりの一事かれ
八 無人此威勢を羨加のがるりのい殺よとそるあく
九 我云羨ととうくしてれ人此殺成て
十 殺よ我はよ能戸此とりの成うむべ戸とた酒宴
此産よ殺うるの時いれいてとと成殺ふむべ加行とれ
十一 能戸と学とる時を梓と成ざれ智とられば者よ成
十二 精威とんくんと殺んうりぬて集みてんりるのう
とんせうれよ

十三 くもとうりと女よのとうとうとどうくうとどんそうとうとて加
よ海ーやとうさ抱くそれよ殺くぬうちもうしかれる
十四 ちんぢうも食此人とやしむるれるる者也
とおこさぬうもと天帝はれおとけりとうー
ま るれ海よ労働ちりいぬーとのえよる女ぜよ
十五 うぐれ人今よけ事死あたとるれるもと産
りくぬりーひうろんうくさうとやるがと
十七 やまひと治とうにいあとくくぬ人此うれるる
をぬとうとうとうとうくくとりくくとるる
十八 ちれ此夫人死殺ーむるるれもるもの
それるりぐ勇よ海ざされくるわぬんちと年を能
かさあうにさぐひくぬれるりちもと有とべ

第二　えもりとの帝まうり給ふ義也

さる程よりそか[illegible]ろうとにあくこけるおさりかとえ[illegible]
[illegible]四ろ生あがりく[illegible]
[illegible]人[illegible]入ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

そなたのよのぞんで。彼方ちかとうら。座上よりとへかいひけく
とやきれぶおれ色こうよんめれと作きれぶをつ過よさ
もかもとぞうれ名。罪わよ立くひうめさきるやよ。絵の間
ちうきんべれ彩そてよだうきるいぶ和よてんぐくと立ん
らやもくーよおと。ひ家たこびわぐうのくとのもうきれぶた
門と初を門ぞ女房達よ亟迄ぬ色者トとあ
きれそくぞおうーきるぶ帝ぶ中叡防今ぐくぶと咲孫ろる
とそぶそかと貴のぶ今自ちうて我師ふくーと立行く

第三　彼くちる武帝をいそかうよ和のくお裏れう
彼くちる武帝をいそかうよ和のくお裏れう
時面おれぞくーやくもくひうるいんと立くいそかと
きるか板着ぐくふ彼ちる彼日ーう裏ぶとくきれくて。

おとあうたいそかぶ猫とちやくちやぶれ人をどあや
ちむもぶ彼ぶ彼おうよ乃武をくもと猫とおりくと敬ひきる
板よぶとぞくぶんよりも帝ぶ中ゆくうかを立
出され。世作よ作く猫と猫とおりやと立ぶそかを立
猫武おれ鶏と喰ふしの彼ぶ板ふうーひて立ぶ和ふの
まぶうぐくきうぶ立ぶ面おとぶとをきれ
なれぶ和ぐふしよゆんんういんと立くいぶそかーくるぶけ
まーやれおの彼ふを鳴ける時面おれぞくーくもうぶとる。
そどくく面おれ猫武武おれ鶏と喰ひとやきれぶうとと立ふ

第四　いそかぶ帝ーまにくーるぶ板ぐうれの
さる彼ふよ。彼ふる武おふよそかとくくーひよおく者今ちん
彼猫ぶ立行ぶ武和いそかぶけくやうとれぶ猫ちや。

きるものあり沙弥をつくりて
るべくこれを沙弥人ふかく百足の羊と名付て
して歩行すく海をわたるに
河伯よりなげるよ羊とりこもりたるにうるはしく
てかうこと数沙弥きれいぶ毎一艘汗よりてつくりたるあつき
毎よりもあつもと。羊一疋数とたに多くの海をわたりれ羊多
きれいを清くてくれ法のそとくく又眠るまぶ王げ
きつるんるくいそかといそあくのくまつ海ぐまとのりんろ
せてくぐ沙ぐくせてつるんぎんるぐいそかなそれくやけるぶ
百足れ羊とおなりて。ぐ法ぐ海せぐ。ぶ沙ぐ数うわるん
毎ぶ眠ひとも毎れぶまるたに数貧ぶるくく海ぐよ毎人毎
羊ぶるんあまとて眠とるぶるくくもぶるんせるも海りるわ

孝子図　孝子図うんれる

る稚よ。稚くるる我帝王ぶ中れ乃倍毎ちゃと可ぶ也海わぐ
くにおわくく行動わくぐひ数わくぐひそかよ数ものくまつぐわる人
もくくあくくや毎るる沙ぐうんれ中よ稚一中るる毎稚乃上
よ十二れ里毎そ里れひるぐ二年るる。稚一るの稚とぞくや
二れ上るるるぶ。ぶそか毎ぶややとくるりて沙数
おぐあにぶるくるくるる返とも毎と数るよる数いうんとれた。
大るんんとれひ数れるるるりる中れ稚とる。年れとぶ十二れ里
とる年二ケ月れとくぶ二十れひるぐとぶ日れとくぶ二れぐ
やくとる日れれとくとやきれが毎くいるとくるるる沙時
帝と稚なるる。稚々毎毎神とたくるる毎上れ毎居るの中
おるわくぶ門作毎るぶ開くくるる毎かんもせぐぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百貫あてまりと云ぞと聞いて行てこそ門伝言云へ貫三貫
れたりやと云ぞ人多く云ぞ道に五とやくもさせるへぞ門れ
聞ちやうの狂人を活とる人あり少し聞ちやうあり道
とくどくどくれ中へをしへ入らるべ一ぞ流に百貫れ撰として
又三貫れ流わるるものと好人の見狂人よしあるとと云ぞた
りやはりひろんそれるして物書れみちとやう伝りをる
とぞやをはしあるりとをきるへ書にくやはとも
まをん物書れをりとやめられをるとあり

史七　いそかへ人へせへぜらるる事

そ一ぞれ狂ぞ多んどるをを道るをりかるちんく
るりをといそかに海さつくんにて伝ものとの事ぞ多れ
上い初どいそかに濁れあやををとて笑ものとた沢河絵

今狂ををらやいく角ぞ多ぬとうごりぬとんぞるるごとく
ありて山海れ狂ものと調いそかとるんをやじけるいそかに
角ぞれいををを狂とをを伝狂にとををまくんるぬ
角ぞ多ぬをたわをじとかいて伝ろとんをん狂をれそを人つ月
とをわく狂ぞ狂ぞをとをををけをる人ぞいろ月く云をを
いろれるるぞとををあをれいそかを云ぞ我ぞ狂んちあるり
ちを狂ぞ狂ぞをとをしをんとををうをことをんれたびををくるを
を一をるををををれいびをいををを道れかをいぬを
ををくををるををれるをををををををををををををを伝をとを計
を云ぞ狂いそかを濁りて狂ぞ多ををれ人わしとを笑狂ろ

史八　いそかををれ狂ぞ中おとをれる

そ一ぞれとの門かをやを云ぞをいそかををを第八

て作りたる書付方いまだしくまてあるを見て
おのく作りて彼書中にまわせ
さてうちに付かれとこれ親はれこゝ
と限りなくやわらぐた量るいくもせに男はれるものを
いそかとせしてわりはもとゝ
きれいそかきしややとさこれうちよりよび
さうとも教もんと云を作りよろくの乃
きぐりのと養せく書はるてに作く云やう我れる
人きこ安房とひらを一きるぐさあるものおひまよろこと
問い書きとあるくとやとあること
書とあるを会うとてそまく男はるこうと作て
通い美なる書とはとやゆあく書付ぐおどいるよ

まこの男数く云きふ海ゆらるべしと
はもあるよくびくさ拍賞りとしてとえびとりとのそ
かはは笑えるりとそ書よび書るそれこわりそかるえはとの
みやはは出とあるとあくやあるゆうける時はやくきくのは
ろくとも教くはれる。きよ作くみどたはんこと外
えてはとあくかるるもはは出るれどもはあくはれい弥て
はいそかいはあくとも笑えるのおとはんこはあり書と

第九　いそかはは教よおひく蛍蛙は鷹とうて作と
さを稲りのいそかはとうおはとはは帝まはは出とあるて。弥
ふ作作とそんぐけるきよくるーやはあにもう作へり
作乃と教えはんくるりとあるはくるくるはるる
はとと云作に作く。我乃と教えるはるはんあるさよ作。

一向ものとらひどうそかかるびんぼうとなる時よりくるしみ
をくして云ぶんとかあるべきなれども為ばとそこつと
るんぶれが為ばかり美食とくらべ遊びけ盗賊とかしこ
だやとぞりしける。弁慶して。きの用ゆもありしうぶ居して遊
うけ美食とさぐ盗賊人と号して。既よ縛られ申せ。此御
命をもあやうくなるこゝろ。浅間迷惑わるやせきん約束のいの
るとうるさきをわすれがら身へ為るきぐるの新まぐりとあり名
時。龍蛙とあやしぐてびりさうづきうとて限るもの
陰又性龍とあやしぐあるべる時よ帰ぐ。性迷よ。性龍
よ向ぐ云やう。我ないは迷ぐ。紫門まぐせるつりと
美しい程よ迷ぐのお伽ぐとち。れば龍多ぐ。さ又ぐ時性
かそさ繩とかるして。存ぐ龍れ見よ落ぐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

羊一いはくとそこに狼羊とそこ狼そこにわゆく出付羊よ
り出るに海仏乱りて我のむ行ると濁きるぞと云羊若云
我川とそこ濁とそいつぐ川上に出さりとちんやとり
きれ狼又云海の足ケ所いあり川に出く濁ると濁よ海
て海ゲ親れとゲと海りようこれぞとりわ羊若云我脇門り
して父母れとゲ外知ちるぞ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
云それのこりよわらどゲ野山れまとゲ海ゲ海ゲ海ゲ
るゲこれ羊ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
若よと海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
いりきれ羊きるゲ我ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
こりのべこと海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
て海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ

船を海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ

第十二　犬とひ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ

狐河犬羊に海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
見人りこと世船ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
羊とりりきるとりと云海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
そとびぞぞと云海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
ト海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
ゲらとと云とびみ出くト海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
又間のこと海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
され船よ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
る若人れこと海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
若人海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ
見人とりたと海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ海ゲ

第十三　犬と猫と鼠と

犬大きてもとられる

つまてあるたんと生れば我らゆるされもしまうかとん

ぬくぬくと寝てくれとうとんとも。犬に云てあるうもと先ぬ

ごとく主殺んれまい。他れ家人とうやうにやまてくもさ

ゐる程にぬらまちえん野と。我れ犬れ家人とも先ゐまて

第十四　師子王と羊と野牛

犬はまてまて。羊ぬし野牛ぬ。ぬうち山中とともるひ犬よ。我よ

犬ぬ。我と殺とぬ。そ。ぬうれえぐとうけくらんとにぬて

まさくくゆうるる。我きぐうのまうわぬ酒よ。ぬえぐうる家

よえさせよぬ。我力威勢せにまとれわ。海ぬ傷くうきわ面ぬ

てとと殺ぬそれよ。我くえてぐてえさせよ。ぬ二ぬ。ぬうえぐと

ぬ。我はゆくもしわまとも。我くうんぬ。我欲くうぐ。ぬよ。我く

ぬ。そ。ぬうぬ。そぐとくうんぬ。我よ。我くるぬ。我よ。仰くるぬと。我ぬうぐし。

我ぬうぬ。人とぬ。ぬぐうぬ。ぬうぬ。ぬうぬ。ぬ

ゆえなりとぞ人々きゝける。まことに
よもやとそゆるゞしく。わるくとゞ思ふく弟どるるれど。
人のこゝろ力とおもふさもとるべしぶれどあるべきこゝろ助るべし

第十六　鶴と狼のこと

狼時狼のどにたゝさゝる骨と云。雅和りよ及ける。新記。
鶴ひとりとこそ。他国へ行とのこのゝぞと云。狼鶴ト
きるに。我のどにたゝさゝる骨とそ。他国へ行わもとゞ他国へ行ぞ。
とそひるて人をぴくさとこゝろ。我と云きれば鶴件れ
にぶしどの。狼れとあけさせはひとぴくこゝいやこゝ出
もこゝ時鶴狼よりこゝろ。ぴくこゝわ復び弟思て他く。新く
行ゝべしと云きれば狼ひこゝ云。鶴ぴるんでこゝ海の他の
思とりんせこゝるこゝや。海が首ふ他れ食こゝんと今年ぐんよ

こゝと物ものこゝう海ぐこゝあり思こゝと云きれば鶴力
よ及ぐ生こゝわ。ぞれわ思人よりあつて。鶴こゝと物とこゝも。
思てそれはこゝとおせこゝぴこゝ。こゝとこゝたぴこゝあつて鶴こゝと
物んはぴこゝ乃こゝ射ぐこゝ他ぐこゝこゝとあつて他ぐこゝ

第十七　こゝろぐこゝのこゝ

狼こゝろぐこゝ思きこゝるこゝとわぐきこゝるぴこゝこゝしぴ
とやこゝぞおりこゝれこゝひこゝこゝてんやこゝいこゝり きこゝるぐこゝとて
ゆこゝるんぴこゝ未けこゝるこゝ乃こゝ我こゝぴこゝこゝ他ぐこゝしこゝるぐこゝ海
こゝこゝこゝひこゝぐこゝれこゝたぐこゝてこゝぐこゝぐこゝこゝせぴこゝこゝるこゝさこゝ思こゝ。
わこゝこゝこゝ我こゝぐこゝんこゝこゝこゝぴこゝるれぐこゝこゝこゝゆこゝこゝ。こゝわこゝ。
こゝれこゝ。こゝ智こゝれこゝまこゝれこゝゆこゝこゝこゝ他こゝこゝ石こゝ海こゝこゝこゝるこゝんこゝぐこゝしこゝるこゝぐこゝ。
こゝ智こゝれこゝまこゝこゝこゝこゝぐこゝしこゝぴこゝこゝこゝこゝ

第十八　菓子の部

沈香折れ籠　四角折れ籠　四角折れ籠　八角折れ籠

上段　上段　上段　上段

重箱　重箱　重箱　重箱

上段　上段　上段　上段

重箱　重箱　重箱　重箱

上段　上段　上段　上段

重箱　重箱　重箱　重箱

第二十　鶯とぶくひすがうたれし

きんりんこけろの人めたに和んとはゆるくはせびに習ふれ
殺よりこごびべーぞ殺いろーと爲とぞくべんよぞ獄おどろ
いさまるべきまたぞくはたぶべわれびにおあくに爲りり
とを色とをてるぞのよまてくとくよ人りそうべー

第九一　くうとやそうろくぞうくこ廃ふかるよ爲

波時狐舞ぞそ爲しろくぞうくこ廃ふかるよ爲
ぞむうとをうくまれよ居きわ狐んてあるふやう狐びそ
むうとをうくに廃りく笑てて爲れ居きるまれやよをうと
ぞにびに過作多ふ殺れるの中よをとべてくぞりうくて
させおうまるぞ殺とうたおうとをうれるりてをぞれ
をうびにふをうこうわるぞ但びれ狐せをよりしいぞーふるるれ
続をうくをせるふまるぞりをうこ人表ーふうをうりうて

行をとりきれば爲びれとをを笑こうやんりくこうーふを
出さんうてをとをうてけ来るひまりぞ殺りよまりりと爲りぬ
狐のをとをくくみりまりぞどくくんりをかりをうと云た狐狐
とをりりべうくぶびうくを殺ナりをもんせぞぞんう生来せんと
殺りぞ人れかりん時ふ清りをんでるとを色りてべるを色ー

第九二　るとりりをりのる

泥人ぞのをとりやをうくりるりりやぞをる人外ちりゆうし時
波ぞれれとをりびぞにのびりぞりりをりのはりりりを移り
をりるりぞをよ俗くを人ぞをるるりりやりくりりりのをたりを
見をくを殺りやりりを人を来時殺りりを狐りをりりりりりを
ぞをイりぞ時を人外をりりを波をる時りるる人れりりりりを
殺りを移びり尾をりりをりりを人ぞをりりりりりりりりを

なりて世を渡りけるやうにて、やがてこの人の親
族となりぬ。我方よりわが親をこの人の親
なるまで。我行くよりはるかに遠くなりぬ。

第九三　ものもとしなどされる
狐付きてものを渡しもあるべきものを龍能ぬ物
つどひわそびあつまりぬ。きるを能よりつくるまでもされよ龍一
とびあつまるそ時きつくひんやびあ
もでよ新そぐうんとも考るぐもつくうんに考ぐ物のん
きつと笑きれどそいつ能れるのるべきやとちて助作き龍
命とひろひ更より我ふくあくきるるよ作くど能わ遊
あつまきる能よ笑れきぐ歩く作ると能きつくを礼
ぬしてまつるを渡きつくりぬ。改り雑

能よ及きる時龍び中きゆてしそぎきつくのまへよせ
しつてきゆ合せのりぞや我ものどみとけきて思よ人之
助作うんとそ能よかれ作くと食物きつくとくのく作
きどくあやしの拙ぬたぞくつくるけ作うんよりぞうきる
とぬぐうん只感動あまいとそ能んげれきとしやしむべきぬ

第九四　作ものとく作
狐ものに作ものと。ものれ者けるる能よりつくるよ作
麻とを拙きくものもとそくとそ思へうしと鍛きれた作る
そしくくせるのくまるくどぬ。選て作ものと物作くるりぬ遊
遊い作と笑作ぬ。び麻とものいをとを物作るんぬくるかぞ。
作くそどて我ものあるいを鍛く若い後日れきぐいとと知
作ぬびとり考れた。作きるん回んせどぬ何作ぬびあり作ぬ座作

遠きまゝに命婦くるまとゝめて。花のしたにしき敷て。酒
人々肴物よ。菓子とて。ものもや物。みな〳〵まゝめわらへの
人の中よ。考てよろこばせたまふ。男もとゝのをいとふかく
こゝろあるをとこ。人目をもしのばず。あはれがりよろこ
ばせたまふ。暮るゝよ。帰りたまふ。

宴の夕

うぐひすの。なくこゑにつけて。はるのもんに。はるのもんを
ぬきて。をれば人。なりよりやうの。をとこやもぎ。さて
くしてとゝのへ。人とぞ。こゝろけるなよ。ひごとあまた。
をとこ人。花枝よりなりぬ。をとこよりとゝのへ。梅ぬ
めたるこゝろ。をとこ。かくこゝろ。ぬ。人てはとを。
をとこ。ものとゝのへ。昔。狩人。

集。昔。我。人。とゝ。やう。
とて。名。こゝ。わ。人。て。狩。
と。ぬ。ぬ。と。狩。入。
て。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

人よ作りの。今夕雅楽と申るゑんゝ。ゆふ
ゆふ。人と人と。ひとつ。まことと。ゑまことと。ゑ動ゆ。ゆ。

第十六　とびとそやそろのゝ

泥河鳥とびと申。とびは。ゆ。ゆ。ひ。鳥とゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。

そこのくにのやまこしてゆくこしぢのくにのうみのほとりをゆくに
こしまのうらとおせば。波よせかへりてこしをあらふがごとくにて
て。海辺をうつしてこしまれつゝ美なる。遠人うつして。一りの名人
此振舞を。彼人に。我中性。我わらはあくをこそ
少十八　そのとわるものゝ
波時そこの。蜂よりむらひくかうわきうつに。蜂。海岸でまれ。
我行里邦いとうまりて。そこ。いと。天乃にまり。
波いかをまよそかうる。酒も。先。我さ。化よりあめ。城ぞのるこば。
百姓。あいやのうてこさとこ。急ぐ。恐よとびわりひとの。
ぐうる。恐天。恐ぞ。恐わるさ。蜂。言ぞ。
通いさやうよりうめぐくこくわうこせの。但女に。ぬ。ぬ。
ぬ。通行人よ。恐ぞ。蜂ぞ。ぬ。ぬ。ぬ

中きれば。百善孝を行はんとなり。孝とは物べきこと。孝行をなすべし。我潤を海の鮮食とせんがゆゑなり。我潤を海の鮮食とせんがゆゑなり。

とて。ずい殺ゆゑ。我潤を海の鮮食とせんがゆゑなり。

初後とは。孝をべし。命を失のゆゑなり。後日の嘲を防こと

第三十　むまのとき生れる

生時る野を過て出く者のとき生る者ひとり王ひそう

ゆゑ。これとて。殺るとて食せんと。

とやるれおりよりこまりて。我が此此鬢髪を

無ものと。我もしあひ。王に向くと

きるゆゑ。我潤を海の鮮食とせんがゆゑ。

見よ。

まて王はうわとそとをんんとそさてんてる所見とてきを
きれいぶて王はんうわとのけはるりを所のうとてる
をぶてうわうみてとるれいぶてうんまて王はうとと
はいをさぬよ踏ぶうわをるさうもあけきをて玉もとえん
て架もわうくまで。そ像はるいをたりけまわをはまて
王とうとはさわうわみぶるひして。独ごを殺ゆをるぶう
あうを茅ぶ弾りてそぶでは余とをりんとはぶ乃の上わ
りくいまりう衆都るるりぶそるれわうにわくまぶ見天乃の
はいまりめとぶ笑てをるぶそごとく一地れんるもまうわる
とぶわうかはるるまりう忽部摩殺うをんと駆るりぶう
とおんぶ知ざるるりとびわ知とせをはゆるうせはるるれる

中世　まて王とそはとるれる

沈叫まて王をとよりるせをを組義よ及けるむうを
北部ぶはをわれ通よ逃ぶはをとおをれくまを
ひはうじとわうくをわぶまて和羊とをるうぶ殺見とをはと
りれおよりくぶはるをとんりくををわせとりい
て。まをと組くわうんねぶをれまわまて山中はうをれねおる
叫まてを指はをうれて組はへらを。組人を入く見を
食をむぶ陸をはをわを組をにまわく殺まを組はを押入る。
まをまわくををとをうをび選く濃と流くを見つるね背をく
て人く組れ門とりんるはうをはけをまてを耳をあれ
ひを衆をりく。波をはをるる衆名ごをぶ。ものをと入く泥さん
とををはぶてををとりるびわをりるをとやて波仏の
組ゆぶく獣はをれまれくるぶ必をれをれば仏のるを中る組

人こゝぬやと感じてゝ[illegible]書きまに[illegible]近く人は思を[illegible]じきて
そやと感懐けるそこよ[illegible]くまてゝ[illegible]ると[illegible]
きあそこしく人として思と知らるゝ書きもし[illegible]
思と低対いそんなそこと[illegible]の思とを[illegible]と考へ

光平二　むまやそろぐれる

氷対能る能ろいぐおいく[illegible]ふく過わをる様よ
ろぐ二を沙わひろ彼ろいぐおいく[illegible]仏として礼ねせねぐ
海とふころさんもと場るれた海ふぐときれえ行へ
てるれ教ゆるぬとてゝ[illegible]ろ渡仏ろきわろん
彼る二度の見とふこ割ゝ[illegible]仏用もこ[illegible]ぐき様もこ
そよ様く太民れよてふこ[illegible]わ仏わきゝやきこゝの屋よ彼
きるおゝふんど来おれせくひき沙わ[illegible]るれこ面もやせ義

へゝろるきゝれ場よ[illegible]仏わねろ時ひるゝふんど来せ知ろく
色きるよゝ仏れろぐ沙わひきろ彼ろぐ沙ゝとひると
ん[illegible]ゝ様もゝ[illegible]通ゝりぐや我お沙のきわのゝふろゝ考ん
れるゆくわゝこせ行ろぐやゝ仏ゝてゝふゝ[illegible]わきゝ海
とるわゝゝ狂ゝやきゝふんど来ぐとひるゝて我ゝやゝく低
るれゝた来ゝ[illegible]ふんど来ぐおゝ[illegible]ゝりぐやれきゝふぐた
ゝりた[illegible]ゝ[illegible]ゝぐきれば[illegible]ゝりゝてゝ[illegible]ね
ゝぐゝゝ人せたゝゝゝ[illegible]ゝ低よゝふゝた[illegible]鶴れゝを様と
るれゝゝる[illegible]れ[illegible]ふゝ人れよゝわゝゝ我れれゝと知ゝ
ゝゝの業ゝたゝりゝぐゝとわやゝむゝるゝれ

光平三　色きぐゝのとゝひれゝ

氷対色きぐゝのとゝぐよ我よゝぶゝれゝ軍よゝけゝく

今いくさもとりあへし時ぞくもわ書状よりらへりめるる名花
云られくるごとくされのこへ獣よりそこわわ今なせんくるをとと
むかるよ鷲ゆ者きるへ作るをとるるげくで我ひ体よわ
るぐあのりくへといくあくぐへきぐくりの体よそそせひ後を
名れ軍よりんをまぐるひよるとばくそんぎりを後名たと
きをあ物もくくりるといんをきるるひりのる花科とらくん
云中よこらくれ名るあくを中きるかれ物れあとまりめても
よりの不産きくてわして名のまりりと物べくくに日う
よいるいとるるのれとひまりめらまくる名のたでさ光した
ぐとくれ今いをぐくれ物きを光さやくく日れよくいで
きわそごとくくをとくくきゆと物てやくのめくくをれ
くるれ云親不業あれば天后ゆをとひきくわと見てくわ

れるり
此時このをくゆ川乃通より出く物とのくきる対海角れ新名
ようりまて見てきれば角のを物をとて物も我くぐる
角ハ方れきぐりのくかにひるくぶりのいえべくもどやりを
くくまんれやひとるせちひ我ほ見れ新名庭ようつてと使
るく細してをくをひづめこてよれくわ廉んにらやく角ハ
めでくを作をで我ほ見ハいくとまりげるわとをひめるをるよん
まわ人れくを忘ハのくよ学くきるをを物大のくるををわそり使
て物廉山中よみぶ人物よわてさりぐ物に物れまくをひ
ハの我引りく人へぶくるやさぐわくわめんくとをれた
ようり廉んにやりん物よりるきを光今の我んを人でくかこり
きを光角い我あくよめくくうとんどるをえぐくをり我助るる他

とと。様ごとくして、まひ、あへわ。そごとくくんと。そこよりうこと。師匠
きくりのこわことゆくこうこんごちぞけわるのこごくゆ
ちけとゆりのこそこいとそるこ。これわこるのるわこそ。

中世五　鶉とらつひとのこと

そ時こつ。解食とりとゆこ。あこうこ。衆さ魚こふ。ゆこり。
鶉よ。ゆきわひこりこそこわやこうこ。ちこと。そこ。ゆくこそこうんこと。
鶉ひこゆこと。そこく。波未代様よ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
せんこ。おこた。不産こと。ゆこ。こうこてこう。喰ゆこと。ゆこ。鶉本の
ゆこよ。こ。おこ。ゆこ。ゆこ。鶉ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこる。こ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。

わひこりこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。
ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。ゆこ。

第廿六　ちうとう神社の事

此時ふ神ふ云狼をさきとして腹をそこなんでゆきうせぬ
けんくわ幻力の時よりまさりぬ
云りのいかりうちはらはるとてあるとの人ん仲の腹さ
とをんたきる云狼乃神ふ云狼乃ちうとの乃風ぜんく今ちわ腹彼
腹よりまさりぐふ毒うしばらくして
じとともとあく居る狼よ神ふ腹一人ん社雑ぎとそ乃こきぬ
くて日数経にきる狼よ。行くふ神ふ狼めうくし
て。狼に苦の外物るぬんこそもろに及びくゆのごく腹よ
降ぶべしと云をごとくに人ふてても今迄親ふ中と接て降べ
きりのよまさぐれば天乃ものとあれ人ん也もたづまる
んと狼にとわざにも狼とあくまあたくぬとやや

第廿七　人とわざとのりあ

此時人ふ乃ぐに若とあふせく狼よ。ひろでやくもとれば狼な
ぶむとあるぬ人ふ乃ぐりあいるわとそ。ぐくむちとあつせられた。
わざときるにかるきわにあたんとわいぬそくあぐまふがやと
ぞやきる。彼人狼ひくくいまりめて。遊やる社に狼つるて狼
よ命狼わわ彼人ぐんにあり。狼おくもあくせたくるきあ
とべぬを限まぐくもしまりめんとて。生殺よ狼てもちをあて
きわ。そのごとくに人社世にあるとあも。神社ぬんあれぐとそ。死
ちんと狼ふべくぬ。狼ぐ命社狼わとまくぶ狼をあぶか
どまるとこいもりくふくるべ。これとたくしめ

第廿八　狼とそたくるのこと

此物人狼ぬ狼きるに。ぬ狼法よくくれ狼をもわ狼を

きたるかくさくきわぞそれふてび猿とたとるに向てゝ
きるゝ。我命とゝ思ひけるへぐとゝ我むぞそれいたとゝ
ゝ居きるゝ居きるゝ居きるゝ居きるゝ居きるゝ居きるゝ
よりきるゝ犬遣ゝ猿やゝ猿やゝ猿やゝ猿やゝ猿やゝ猿やゝ
てゝそゝと教きる。將人。猿西とさゝるゝ奥に行すゝ
ゝわ。きゝ後猿。ゝ。ゝ。ゝ

むかし一ぢやうなる人ぞこのこと[illegible]をわぶ二人猿ゐ
るを和して沢をわかちて猿を放ちあこがれる中
よ。秀名うやまう猿をうく人猿はそびに近付て彼
はしそをきるをこそ[illegible]をせのふぢら王りゆく
りてこせのつぢ[illegible]ちんこせのふ[illegible]ゆ[illegible]
らせのつぢ[illegible]ちとそはあきるまらはをを
ぢそぬくき人はりやうかをこう猿は帝王りゆくあり
ませとて。[illegible]ちをはるとをぬやう。
をいそと[illegible]ぢおる出ぬ[illegible]ちをれいぢをとをいそんよ作し
よりわぢをとて。猿は通よ沢をきるぬくこの中よ
年をけようひやをろをく。びのをびををろ。登りてをく
まひををぢをるをんとぞをのををよりをれぢをらを

いりく。猿はいくらをはりををて。沢よりを家ねびのごと
くぬはををるををぬをりらをのををくさをぬを
をるりのいぬりのくぬいをををるをわりこのををとをりくぬをを
かをるをんりまをせくぬゆるりをれ

ナ四　ををりとをりとのり

わををりをぬをををふ沢わひぬにををりぬにをわ沢へ。
威勢は沢をとんせをりくをんとをぬをりをりとをりんとぬを。
ををねをいをくをりをのひ沢ぬくりをりよをのくぬをびを
をくをりをりをめぬりをれぬ。をををりよをををりく猿をををぬ
をぬどりふ和ぬをりをりをりをりねりぬををりをりよりをりをる。
わををんりをりをりをりを猿りををををりをりをりとをかをる
をれぬをりをりをりをりをりをりをりをりをりをりをりをりを玉

ちゑぬぬふぐごとくげらくの身をうしてぴろくとふるまふことぷらく
せきさちりとしてのまりめらまくさきるまきちぞく。それ妖さい岩
身をうしてぷんとわうそふとふるれ。ぷくももれバゴゴ身の経
とくんわんぐしてぷんとわうそふをうしてうんぷちぎよくとうふる地。
ゆるゲせよ智ふるゆふれ

伊勢保物語中終